

2019 年度 推薦入試 2 期 小論文

次の文章を読み、設問に答えなさい。

「どうせ百姓をやるんだったら、もっといいところで勝負したかったよ」

北海道の中央部に位置する町の農家の男性は、丘陵地でのブロッコリーの定植作業をしばし中断して、こう話してくれた。

この農家は、山間部にある 4 代目農家だ。訪問者にはすばらしい景観に映る地理的条件も、農業を営むものにとっては不利な条件となる。傾斜のために機械が入れず、作業効率は悪い。強い雨が降れば、表土が流されてしまう。同じものをより多くの手間をかけて育てても、平坦部と比較して生産性は落ちる。

「若いころは、平場に移転して勝負をしてみたいって、いつも思っていた。だから、ほら、あの納屋も古いしょ。いつか出て行こうと思っていたから、手直しもしなかった」。だが、彼の顔は後悔しているものではない。「うちのじいさんたちは、なぜこんなところに入植したのか。でも、この場所でできるだけいい作物を作り続けることが、やりがいかな」とも話す。

農業を成長産業に。企業的マインドを持った人材による、もうかる農業を。これがいま、国が進める農業振興のスローガンだ。でも、こうした視点からこの農家を「新しいことにチャレンジしなかった」と非難できるだろうか。

ある場所で生を受け、その場所で精いっぱい生きる。この国の地域を維持していくのは、こうした農家ではないか。「百姓という言葉が好き」という彼のように、何でもない普通の農家がいることを知り、次の世代につないでいくことこそが、国が取り組むべきことではないか。

願わくばブロッコリーを定植したばかりの干ばつ気味の畑に、優しく雨が降りますように。

(2018 年 7 月 3 日 朝日新聞 (朝刊)「農家の挑戦に目を向けて」より抜粋)  
承諾書番号 (19-1701)

【設問】

問 1. この文章で筆者が伝えたかったことを 250～300 字で述べなさい。

問 2. 将来医療従事者になった時、あなたのやりがいほどのようなものか、またそのやりがいを持ち続けるためにはどのような努力が必要であるか、あなたの考えを 500 字で述べなさい。